

別冊

おいしいだものがたり

～資料館資料編～ ■「高嶋祥光と板垣家子夫」展より

高嶋祥光(本名：孝蔵)は明治27年(1894)北村山郡楯岡町(現村山市楯岡)に生まれました。楯岡第一尋常高等小学校を経て県立村山農学校養蚕科を卒業すると、上京と帰郷を繰り返しながら、伊藤一鳳、小松雲涯、後藤松亭らの元を訪れ、それぞれに画業を学びました。また、その間上野谷中の太平洋画会研究所にて洋画デッサンを習得し、日本画家・山内多門の画塾で学ばれたわら日本大学美学科に入学するなど、画技の研鑽を積んでいます。さらに大正14年(1925)には日本初の職業漫画家であり日本画家でもあった北沢楽天に師事し、「雲茶庵」のペンネームで風刺漫画の連載も持ちました。帝展を中心に中央画壇で頭角を現してから南画家・小室翠雲に師事し、以後南画も出品するようになります。

このような経歴から高嶋祥光という画家は、一人の師について特定の流派を修行し受け継ぐという形で画技を獲得したのではないということがわかります。日本画の中でも様々なジャンルの先達の表現を貪欲に学ぶことで自らのスタイルを確立していったということです。このようにして取り入れられた数々の技法は、作品となって表出されることになります。その一端を展示中の作品を通してご紹介します。

『出山釈迦図』はぼろぼろになった衣が太い濁筆で描かれており、苦行による悟りを得られなかった釈迦の荒んだ雰囲気を与えています。一方『魚籃観音図』は顔貌や衣文線を細く均一な線で端正に描くことで、女性的な柔らかくで神々しい仕上がりになっています。『鍾馗図』は濃淡・潤濁が自在に使い分けられ、荒々しくも凛々しいまとまりのある表現になっています。『栗拾い』『童戯 大砲』『童戯図』の三点は、遊ぶ子どもたちを描いた群像作品です。このような場面を前に写生したというよりは画家の追憶の中の情景かと思われます。いずれもどこか郷愁を感じさせる雰囲気を持った作品ですが、これは淡くかすんだようなタッチや、身体全体を使う童子の様子、勝気な表情など随所に見られる絶妙なデフォルメによる効果でしょう。

このように描く対象に合わせて異なる技法を採用することにより、作品とそれを見る鑑賞者に画家の感性がよりダイレクトに伝わっているのだと考えられます。この他にも、多彩な技を駆使して表現された水墨山水図や草木画を多数展示していますので是非ご覧いただきたいと思います。(大石田町立歴史民俗資料館 大谷)



「高嶋祥光と板垣家子夫」展は 1月26日(日)まで



大石田町公式アカウント開設

LINEははじめました

防災情報や各種行政情報を
受け取ることができます。

**友だち登録を
お願いします!**

登録方法

右の二次元コードを読み
取って友だちに追加して
ください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を
電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル：0237-48-8444

■総務課総務グループ Tel.35-2111 (内線218)

町の人口 令和7年1月1日現在

世帯数	2,220戸	(+ 2)
総人口	5,979人	(- 7)
男	2,978人	(- 2)
女	3,001人	(- 5)
(12月中の異動)		
出生	0人	転入 6人
死亡	9人	転出 4人

※この人数は外国人も含めたものです。